

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

No	該当する現行条文	改正提案する条文	提案理由・改正効果など	関連事項
1	1.1 コートは縦36m(32m)横10m(8m)の長方形とし、【図1】のように、各ライン、シェルター、シャトー、フラッグ立てを設置する。	バックラインの位置、2シェルターの位置、フラッグ立ての位置について、国連と日連のコートサイズの統一を実施する。 ①国連採用案による統一 ②日連採用案による統一 ③折衷案として国連採用案において2シェルターの位置を1mセンター側に移動する。 ④折衷案として日連採用案においてバックラインとフラッグ立ての位置をエンドライン側に1m移動する案	国際連合競技規則と日本連盟競技規則ではコートサイズが異なり、その事によって不利益を受けるのはチーム及び競技者であるため、統一サイズにすることが望まれるため。	
<p>●コートについてはこれまで、様々な検討、検証を経て現行コートになっていることをご理解願います。</p> <p>●コートの統一については、本連合としても強く望むところではありますが、両団体間の調整など、時間をかけて対応、検討していく必要があるため、今回については見送りとさせていただきます。</p>				
2-1	3.1 チームは選手7名(フォワード4名・バック3名)で構成し、監督1名・補欠2名を加えることができる。 3.1.1 試合に出場することのできる監督・選手・補欠は、各試合前に提出する競技者名簿【様式1】に記載されている者のみとする。	<u>現行分に追記</u> <u>3.1.2 選手、監督はイエロー1回でペナルティとして次のセットに出ることが出来ない。選手は1人欠け、6人とする。監督の場合は監督不在とする。</u> <u>3.1.3 選手5名で試合成立とする。ポイントは5ポイントからとなる。</u>	3.1.2 は 詳細、補足資料①に記載します。 3.1.3 は 7-1の警告選手への出場制限案ともなる、罰則の変更案①に伴う、関連改正となります。関連事項として追加するもので、7名以下での競技成立案です。罰則が明確に適用されていない背景から、「ペナルティ」を導入し、人数的制約を付ける案から、必要な改正案となります。意義として、競技としてどう捉えるか。少人数でも戦える要素を検証いただけると幸いです。 ●もう一つの理由としては、ペナルティに関係なく、雪合戦競技への参加しやすさを検討する案としてです。	●競技規則とは別に、細則など補足資料が必要。 ●同様に記録員による明確な、チェック体制
<p>●各チームのメンバー確保の難しさなど、現状は十分理解できますが、スポーツにおいて試合開始時の選手数が違ってても成立するというのは一般的ではなく、見送らせていただきます。</p> <p>●選手や監督個人への警告(イエローカード)の適用については、5-1に記載しています。</p>				

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

2-2	<p>3.1 チームは選手7名(フォワード4名・バック3名)で構成し、監督1名・リザーブ2名を加えることができる。</p> <p>3.1.1 試合に出場することのできる監督・選手・リザーブは、各試合前に提出する</p> <p>他多数</p>	<p>3.1 チームは選手7名(フォワード4名・バック3名)で構成し、監督1名・<u>コーチャー1名</u>・リザーブ2名を加えることができる。</p> <p>3.1.1 試合に出場することのできる監督・<u>コーチャー</u>・選手・リザーブは、各試合前に提出する</p> <p>他多数</p>	<p>変更内容としましては、現状の監督の位置に立つ者を「コーチャー」として「0」番を着け、登録の選手及び監督は誰でも立てるものとして、セット間の交代もOKにする事で登録の10人誰でも出場でき、監督が出場する場合の不公平もなくなります。</p> <p>大会運営をしていると、特に中学生チームや高校生チーム、また若いチームなどは「全員出たいんですけど、どうしてダメなんですか?」との質問が多数あり、どうして監督が出る場合代わりをあのポジションに立たせてはいけないのかという事と、またそうするメリットがわかりません。</p> <p>例えば誰が監督かわからなくなって困る。という意見があるのであれば、それは大きな大会に限っての話だと思いますし、例えば監督に腕章でもしてもらえばそれほど困らないと思います。</p>	<p>新規参入チームを期待するなら全員が出てセット間で交代可能なルールの方が良いと思います。</p> <p>その上で大会運営上監督を固定したいのであれば大会規程で規制する方が良いと思います。</p>
<p>●チームを構成する10人全員が選手として試合に出られるようにするという主旨だと理解しますが、本来、監督は監督、選手は選手であるところを、現状においても、チームが参加しやすいように、監督も出場可能選手9名のうちの1人にしていただけるようなルールにしているものです。</p> <p>そのため、現行の競技規則に問題があるという認識には至らず、改正は見送らせていただきますが、各大会独自で、出場チームの状況を勘案し、10人全員が選手として出場できるようなローカルルールを設定し、運用することは否定するものではありません。</p>				
2-3	<p>3.1.1 試合に出場することのできる監督・選手・リザーブは、各試合前に提出する</p> <p>競技者名簿【様式1】に記載されている者のみとする。</p> <p>【様式1】について</p>	<p>【様式1】チーム・監督・選手の状況が記録できるように、チーム名、監督名、ポジション。ゼッケン番号の左側に<u>注意、警告記載欄</u>を設ける。</p>	<p>チーム、監督、競技者が受けた注意、警告の回数を記録管理するアイテムとして利用することを目的として改正する。</p> <p>競技記録用紙における注意、警告記載欄とともに、ダブルチェックできる体制をつくることで、監督、競技者の反則行為を減らすことにつながると思います。</p> <p>大会においては、記録用紙とともに競技本部へ届けることとする。(現状は雪球ケースとともに雪球本部で回収している)</p>	
<p>●チーム、選手の反則等の履歴管理は重要ですが、競技運営本部と各コート間の連絡、確認などで、十分管理は可能と思われるため、ご提案は見送らせていただきます。</p>				

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

3-1	<p>4.4 次の選手はアウトとなり、そのセット中はプレーができない。</p> <p>4.4.6 サイドラインやエンドラインを出たとき。または、体の一部がコート外に出たとき(※)。</p> <p>4.4.7 フォワードの選手が自コートバックライン後方コート上に出たとき。または、体の一部が完全にライン外に出たとき(※)。</p> <p>5.1.4の下 ※2●「センターラインを越える」とは、いずれかの足が完全に相手コートに入った場合をいいます。</p>	<p>※スタート時及び再スタート時のONライン時は、超えたものとは判断しない。</p> <p>5.1.4の下 ※2●「センターシェルターは「自陣コート」でも「相手コート」でもないものとし、触れてもセンターラインを越えたものとはならない。</p>	<p>ラインオーバーの判定をすべて統一することで、初めて雪合戦をやる人も解かりやすくなると思います。</p> <p>現状の足の裏とそれ以外の部位で判断が違う事と、4人目の判断が他のラインと違って体の部位が謳われておらず、足の裏さえ自陣コートにあれば体はどこまで入っても4人目とはならない事になっています。</p> <p>小学生大会や初めてのチームが多数参加する大会を運営していると、雪合戦のルールは難し過ぎるとの意見が多数寄せられます。</p> <p>新規チームを少しでも増やすために、ルールを少しでもシンプルで解かりやすいものに変えるべきだと思います。</p> <p>ラインはスタート時以外は、体が少しでも出たらアウト。もしくは4人目。というのが一番シンプルで解かりやすいかと思います。</p>	
<p>●ご提案の主旨は十分理解できるどころであり、雪合戦競技における各種の「ラインを越える行為」の判断基準を、ラインアウトの基準(競技規則4P 右の画像解説)に一本化し、その旨の競技規則改正を行います。なお、センターシェルター上については、従前よりラインはないものとしていますが、明確になるようにその旨も明文化します。</p>				

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

3-2	5.1,2 センターラインを超えて(※2)4人以上の選手が相手コートに入ったチーム	<p>※2 の4人以上について現行分に追記 ※3 4人以上の選手が入ったとき、最初の選手がコート外に出た場合はコート内の選手の人数により判定する。選手がコート外に出るとはサイドライン、エンドライン上から完全に両足が出た場合を言いません。</p>	<p>詳細、補足資料②にも記載しました。「前の選手がコート外に出る」定義の記載がありません。上級のチームになると最後の反撃の戦法として、複数選手によるフラッグ奪取の戦法も練習しています。つまり最初の一人が囨となってアウトになって出るタイミングと「4人目」の選手がセンターラインを超える瞬間を戦法として実践して来ています。そうそうある事ではありませんが、雪合戦というスポーツ競技のルールで有る以上、おこりうる事であるのは間違いなく、その時に審判が対応できなくてはなりません。最初に記載した通り、「選手がコートの外に出る」具体的な記載がこれまでありません。センターラインの4人目の定義とは違い、「どちらかの足」ではないと思います。また、跨いだり、空中に浮かんでいたり、コート内の定義をしっかりと示す必要があります。提案文では 両足としました。</p>	<p>雪合戦の場合、ラインに関する判定基準が多様であり、わかりにくい面があります。正直なところ、ラインを踏んでいるのに「アウト」と認識している審判を多く見かけます。最近のサイドライン立ちの選手は、ラインオーバーにならない為に逆に意識してラインを踏んで投げます。ラインオーバー「アウト」における定義「足と体の部分」と センターライン4人目進入の判定「どちらかの足が完全に」の場合は、未だ誤解を招きやすいルールの一つで審判講習会の講師も認識が異なる場合もありました。</p>
<p>●3-1と同様に競技規則を改正します。</p>				
4-1	4.6 アウトになった選手は、持っている雪球を持ったまま、すぐに最寄りのサイドラインからコート外に出なければならない。	4.6 アウトになった選手は、すぐに 最寄りのラインから コート外に出なければならない。	<p>シェルター内での詰めの速い攻防等では、アウト選手をコート外へ出すことが優先され、持っている雪球を把握するのは困難であり、また同行為が警告対象であるが、現実的にジャッジが難しく、混乱を与えるものと思います。またアウト選手は、すぐコート外へ出ることを強調するため、エンドライン付近でのアウトはエンドラインから出ても良いと思います。</p>	7.2.2 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為
<p>●ご提案の規定は昨年の改正で導入したばかりであり、もう1年継続したうえで再検討・判断する考えのため、29回大会については、改正を見送らせていただきます。 ●最寄りのラインの規定についてはご提案のとおりであり、競技規則の表記を改正します。</p>				
4-2	7.2.2 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為	削除	<p>どうしてアウト選手の持っていた球を規制しようといういろいろなルール改正されているのかがわかりません。アウトコールを受けた後に投げた選手は置いて行ったことにはならないみたいですし、それを規制する事も難しすぎます。アウトコールの後その選手がどういう行動をするかより、次に入ってくる選手の事を見る方が大事であると考えます。</p>	新規参入チームが雪球を置いて出ただけでイエローなんて言われたら、「面倒くさくて面白くないスポーツだ」と感じるのではないかと思います。
<p>●4-1と同様の理由で見送らせていただきます。</p>				

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

4-3	<p>7.2 チームへ警告(イエローカード)を与える反則 7.2.1 (略) 7.2.2 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為 (※ただし、本規定の適用方法については当面の間、大会主催者の判断に基づき弾力的に適用できることとする。)</p>	<p>【新設】 7.3 選手・監督へ警告(イエローカード)を与える反則 7.3.1 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為</p>	<p>競技規則上、選手個人に対する罰則を与える必要性が生じてきているため。 (選手は罰則がないことを理解したうえで、禁止行為を行っている現状がある)</p>	<p>7.3 は 7.4 へ移行 7.4 は 7.5 へ移行</p>
<p>●選手や監督個人への警告(イエローカード)の適用については、5-1に記載しています。</p>				
5-1	<p>7.1 選手・監督を退場(レッドカード)とし、チームへ警告(イエローカード)を与える反則 7.2 チームへ警告(イエローカード)を与える反則 ※7. 3はそのまま 7.4 退場となった選手、および失格となったチームは、同一大会において復帰することはできない。</p>	<p>7.1 選手・監督を退場(レッドカード)とし、チームへ警告(イエローカード)を与える反則 7.1.1 暴力・シュルターの飛び越えなど、審判員が危険と判断した行為 7.1.2 相手チームや審判員に対する人格を無視する行為 7.2 選手、監督、チームへ警告(イエローカード)を与える反則 7.2.1 審判員の指示に従わず競技進行を妨げたり、コート外の選手が指示を出すなどの競技妨害行為 (チーム、選手とも同時に適用) 7.2.2 審判員の判定に対する抗議行為 7.2.3 審判員が危険に準ずると判断した行為(過失的・意図的とも) 7. 4 そのセットを失う反則 ※7.4に追加 7.4.1 相手チームがフラッグ奪取を行った場合にその進路を妨害する行為 7.5 退場となった選手、および失格となったチームは、同一大会において復帰することはできない。～ ※同文 7. 4を → 7. 5に</p>	<p>7.1.1 暴力・シュルターの飛び越えなど、審判員が危険と判断した行為 7.1.2 審判員の指示に従わず競技進行を妨げたり、コート外の選手が指示を出すなどの競技妨害行為 7.1.3 審判員の判定に対する抗議行為 7.1.4 相手チームや審判員に対する人格を無視する行為</p> <p>本来なら上記に該当する行為が、実際に大会中、多くあるのにも関わらず、よほどの事でない限り、ほとんど適用が無く(解釈範囲が難しく)、一発退場という判断が出来ない点が挙げられます。この提案は、厳しくするのではなく 個人選手への警告を明確にしてイエローペナルティを再考する為の提案です。 詳細、補足資料③に記載します。</p>	<p>3. 1 チーム・監督・選手について ①改定案から波及する関連改定案として②を示します。</p> <p>【その他】競技規則とは別に、具体的な対象事例と、実際に判定を出すタイミング、試合進行方法などを明記した細則など、補足資料が必要と考えます。場合によって、中断して、アウト宣告とイエロー宣告と同時に出す案などです。</p>
<p>●将来的な導入の必要性については認識しており、継続して検討していきますが、29回での適用は見送らせていただきます。</p>				

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

5-2	4.4 次の選手はアウトとなり、そのセット中はプレーができない。	<p>現行分に追記 4.4.8 試合中に審判が危険なプレーだと判断した選手。</p>	<p>詳細、補足資料④にも記載しました。選手にイエロー、レッドを設定する場合の関連記載。危険なプレーの判定基準を広めるべきと判断します。故意、意図的であったり、ルール上、問題がなくとも明らかに審判が危険と判断できる状況を優先します。</p> <p>●センターでアウトコールを受けて、サイドから出ようとしている選手に対して、明らかにサイドライン付近で、対角クロスで狙って当たった場合。サイドラインに平行上で偶然に当たった場合とは明らかに異なります。</p> <p>実際に危険なプレーだと判断した場合には 現行ルールで選手に退場とありますが、「試合中」であれば警告を出すタイミングについては記載がありません。現行のままであれば中断し、宣告と認識します。ただ、中断せずに一度、アウトとして外に出してから、セット終了後、セット間に協議、宣告する方法が、中断せずに済み、妥当と考えます。そういった応用ができます。</p> <p>「危険な行為」の内容にもよりますが、中断により有利だった配置が、リセットされることをなるべく避けることを前提とします。「危険なプレー」をアウトにし、セット終了後に審議する。</p>	<p>●明確な判定、アウトコールを出すために運営上の過度な音響などをチェックする必要</p> <p>●同様に記録員による明確な、チェック体制 競技規則とは別に、細則など補足資料が必要。</p>
<p>●ご提案とは逆に、危険なプレーが起こった直後に中断し、整理・判定する方が望ましいと考えるため、見送りとさせていただきます。</p>				
5-3	7.2 チームへ警告(イエローカード)を与える反則 7.2.1 (略) 7.2.2 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為 (※ただし、本規定の適用方法については当面の間、大会主催者の判断に基づき弾力的に適用できることとする。)	<p>※再掲 【新設】 7.3 選手・監督へ警告(イエローカード)を与える反則 7.3.1 アウトになった選手が、持っている雪球をコート内に置いていく行為</p>	<p>競技規則上、選手個人に対する罰則を与える必要性が生じてきているため。 (選手は罰則がないことを理解したうえで、禁止行為を行っている現状がある)</p>	7.3 は 7.4 へ移行 7.4 は 7.5 へ移行
<p>●選手や監督個人への警告(イエローカード)の適用については、5-1に記載しています。</p>				

2016/2017 昭和新山国際雪合戦競技規則改正に関する提案意見(パブリックコメント)と国際雪合戦連合競技委員会の見解

6	<p>9.3.4 フライングの合図は笛を短く断続的に吹く。</p>	<p>9.3.4 フライングの合図は笛を短く断続的に吹くと同時に両手を上、前方斜め45度で交差を繰り返す。コートに入り選手を静止させる。 ※ホイッスル 断続的に強く短く「ピッ!ピッ!ピッ!ピッ!ピッ———!!」 (中断の合図と同様の合図・動作を行う)</p>	<p>フライングによるフライングの誘発を防止するため。また中断と同様の審判動作を行うことで、どの選手にもフライングの発生を伝えることができる。</p>	
<p>●ご提案の主旨は理解できるところであり、「フライングの合図は中断時と同様」という表記に改正します。</p>				
7	<p>9.4.4 判定がきわどいプレイ等においてアウトではなかったときは、「アウトではないこと」を表現するため、片手を水平に左右に振って「セーフ」と告知することができる。 なお、「セーフ」の告知は、あくまでも「アウト」ではないことを競技者や観客等に伝えるための表現であり、アウトコールを覆すものではない。</p>	<p>9.4.4 判定がきわどいプレイ等においてアウトではなかったときは、「アウトではないこと」を表現するため、片手を水平に左右に振って「セーフ」を表現すると同時に、「シェルター」、「ワンバウンド」とコールする。 「アウト」を告知した審判に限り、明らかな「セーフ」の告知があった場合、当該審判は「アウト」の取り消し(もといセーフ・シェルター等)ができる。</p>	<p>審判動作のみではなく、大きな声でのコールにより審判員同士のコンタクトが取れること。また、「アウト」コールの訂正に関しては、優先権のある審判による「セーフ」コールがあった場合で、「アウト」コールをした審判が確認できた場合に、当該「アウト」コールをした審判のみが、コールの訂正ができるようにする。そのことによってミスジャッジを減らす効果が期待できる。</p>	
<p>●セーフの表現とあわせて「シェルター」などと告知することは、選手や観戦者にとってもわかりやすく、奨励する旨の記載を競技規則に追加します。 ●アウトの取り消しについては、そもそもアウトコール前のアイコンタクト等による確認を奨励しているところであり、撤回を規定するのは適当ではないこと、また、現実に運用した場合に様々な混乱が想定されることから見送りとさせていただきます。</p>				